

要請したが、不服として異議申し立てがあった件について議論した。

5. 優秀講演賞の新設と優秀ポスター賞の廃止について (山口)

学術大会における優秀ポスター賞を廃して、口頭発表も含めた優秀講演賞 (仮称) の新設が提案された。できるだけ早期実施を目指して詳細を詰めていくこととなった。継続審議とする。

6. 学術大会におけるコロナ対応 (高嶋)

感染者数の状況に応じた対応を議論した。9月の学術大会は対面での開催を目指す。コロナ関連で発表者が口頭会場に来られない場合、多数の講演キャンセルが出ることを防ぐため、Zoomによるリモート発表を認めることとする。会場の通信環境や費用、具体的な実施方法など詳細を詰めて、準備をすすめる。

7. 理事会審議事項の確認

次回理事会の審議事項を確認した。

監事コメント (岩部監事)

規程は廃止、修正、新規制定など時代に合わせて見直していくことが運営に重要である。ぜひ進めて頂きたい。

以上

2022年8月27日

一般社団法人日本地質学会
会長 (代表理事) 岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2022年度第2回執行理事会議事録

日程：2022年8月27日 (土) 13:00 - 16:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、星 博幸、中澤 努、緒方信一、亀高正男、加藤猛士、内尾優子、松田達生、小宮 剛、狩野彰宏、辻森 樹、尾上哲治、高嶋礼詩、山口飛鳥、坂口有人、内野隆之
監事：岩部良子

欠席：杉田律子、矢部 淳

事務局 澤木

* 定足数 (過半数：10) に対し、16名の出席

報告事項

1. 全体的報告

・前回22-1議事録案について承認確定された。

2. 運営財政部会 (亀高・加藤)

1) 総務委員会

< 共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等 >

・公益財団法人山田科学振興財団2022年度研究援助 (2/28締切) への地質学会推薦応募1件は不採択となった。

・公益財団法人中谷医工計測技術振興財団次世代系人材育成プログラム助成募集 (応募期間10/1-11/20) 【→ニュース9月号、

geo-flash掲載予定】

・公益財団法人藤原科学財団藤原セミナー募集 (11/30締切) 【→ニュース9月号、geo-flash掲載予定】

・JAMSTEC創立50周年記念式典及び研究報告会「JAMSTEC2022」開催案内 (9/7オンライン開催) 【→geo-flash掲載予定】

・第22回「こどものためのジオ・カーニバル」(11/5-6 於大阪市立自然史博物館) へ後援依頼があり、承認された。

< 会員 >

1. 今月の入会者 (5名)

正会員 (3名) 田所 明、木田梨沙子、佐々木亮道

正会員 (院割) (2名) 橘 颯人、李 琪

2. 今月の退会者 (1名)

正会員 (1名) 三浦優奈

3. 今月の逝去者 (1名)

正会員 (1名) 浦川洋一 (逝去日：2022年8月18日)

4. 2022年7月末会員数

賛助：27、名誉：39、正会員：3232 [内訳正3116、院割109、学部割7] 合計3298 (昨年比-3)

< 会計 >

・防災学術連携体2022年度 (2022.7-2023.6) の会費 (3万円) を納入した。

< その他 >

・会員システムのクラウド化について、会員アクセス画面の作りこみ改良中。今秋には稼働見込み。

3. 広報部会 (内尾・松田)

1) 広報委員会 (内尾)

・129年学術大会関連情報のプレスリリースのため資料を作成中 (→審議事項へ)

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

・2022東京・早稲田大会準備状況：

→事前参加登録者数563、巡検申込者数125 (Aコースを除いて8コース催行予定)

→巡検案内書 (9コース)：公開済み1、入稿・校正中6、次回受理予定1、査読中1

→プレスリリース：ジュネラルセッション (応用地質・地質災害・技術) 世話人の西山賢一氏より1件の推薦があった。行事委員・応用地質担当の山崎新太郎氏のレビューにより、プレス発表することとした。広報委員会を主体とし、その他の大会関連情報と合わせてリリース資料を準備中。 (→審議事項へ)

→口頭発表に関して、新型コロナ感染者・濃厚接触者に対するZoom出演を認めることとしたが、同様にランチョンおよび夜間小集会での参加に対しても許可した。現在、新型コロナを理由とする1件の「みなし発表」の申請があった。

→ポスターフラッシュトーク19件 (8/22締切)、地質学露頭紹介6件の申し込みがあった (9/3まで締切延長)。

→業界説明会について、学生事前申込は40名 (9/2まで締切延長)。

・2023京都大会：市民講演会「京都とその周辺の地震活動」。2名の講師にて開催されるとの説明があった。セッション世話人はできるだけ若手会員に担当してもらいたい。来る理事会では、2023年京都大会についての進捗報告、2024年度は山形大会となる旨の報告を行う。

・ショートコース

特に報告なし。

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

特に報告なし。

3) 国際交流委員会 (辻森)

IGC37th巡検に関して、IUGSなど関係機関および韓国と協議を継続している。

4) 地質標準化委員会 (内野)

特に報告なし。

5. 編集出版部会 (狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告 (2022年8月26日現在)

・2022年投稿論文：53 [内訳] 論説26 (和文25、英文1)、総説5 (和文5)、ノート4 (和文4)、レター6 (和文5、英1)、報告2 (和文2)、フォト1 (和文1)、巡検案内書9

査読中：25、受理済み：18

・128巻：公開済み16、入稿・校正中14

(2) 地質学会年会に関連した地質学雑誌への論文投稿促進策について (→審議事項へ)

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

7月末時点でSubmission status 41編であり、レビュー論文のCited articles数の上位はレビュー論文が占めている。特集号の企画を期待している。

3) 企画出版委員会 (松田)

特に報告なし。

6. 社会貢献部会 (坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会 (坂口)

委員会メンバーの再編について。 (→審議事項へ)

2) 地質技術者教育委員会 (坂口)

早稲田大会での企業説明会では32社の企業・機関の参加が予定されており、説明会への学部生・院生の参加を促す声かけぜひお願いしたい。広報委員長より最初の声かけツイートをお願いすることとした。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

新しい委員会体制でのオンライン会議を8/11に行い、今期の課題と今後の役割分担を話し合った。

4) 地震火山地質こどもサマースクール (星)

浅間山での「浅間のいたずら、鬼のヒミツ」(8/17-18、2日間) が予定通り開催された。子どもの参加者は24名。次回開催地は神奈川県平塚市の予定。

5) 地質の日 (矢部)

特に報告なし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)

特に報告なし。

2) 若手育成事業検討WG (内野) (→審議事項)

項へ)

3) 表彰制度検討WG (中澤)

・賞の推薦、審査時の補助情報として、規則とは別に賞の趣旨、推薦の対象、審査の観点について各賞ごとに補足説明を作成し、賞募集時の説明文に添える予定。説明内容について報告された。

・若手筆頭者の論文を対象とする研究奨励賞について、表彰対象となる論文の筆頭以外の若手共著者の貢献内容について、推薦書に記載を依頼する旨を補足説明書に明記することとした。

・フィールドワーク賞については、業務での野外研究を対象とするかについて、その研究が論文として公開されたか、または成果が広く国内外の出版物に掲載されているかが、受賞の前提条件となる。想定し得る出版物例をリスト化し(例えば、地質図幅・同説明書、紀要はOK、事業報告書はNG...など)、補足説明文に例示しておくこととする。

・各賞推薦は、専門部会以外に会員個人からの推薦も可能であるが、その周知が行き届いていないのではないかと、今後は専門部会への呼びかけに加えて、より会員個人への呼びかけを強化し、個人からも直接推薦応募できる旨、周知努力する。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

8/12に第一回ジオパーク支援委員会を開催し、今期の課題を議論した。また、今年度中に市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす」を開催すべく準備を進める方針を確認した。(→審議事項へ)

2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

特に報告なし。

3) 支部長連絡会議 (杉田、中澤代理)

各支部長に対して、杉田副会長から連絡事項(広報メディア規則の制定とその利用の依頼、各支部の出版物についての著作権の確認、学術大会は、23年京都、24年山形となる旨)を送った。

4) 地質災害委員会 (松田)

向山委員のご協力を得て、令和4年8月3日からの東北・北陸地方豪雨災害について学会ホームページに掲載した。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

特に報告なし。

6) 各賞選考委員会 (中澤)

各賞に関する補足説明資料を作成している旨の報告があった。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)

堀委員長より委員会追加メンバー案について、9月の理事会に上程し承認を受ける予定である旨の報告があった。

8) 連携事業委員会 (中澤)

特に報告なし。

9) 法務委員会 (中澤)

特に報告なし。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特に報告なし。

2) 法地質学研究会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特に報告なし。

審議事項

1. 地学教育委員会メンバーの再編について。

新しいメンバー案は下記の通り。

坂口有人(委員長)(山口大学)、浅野俊雄(元東京薬科大学)、阿部国広(島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会)、大信田彦磨(愛知県海翔高等学校)、高嶋礼詩(東北大学)、廣木義久(大阪教育大学)、星博幸(愛知教育大)、松永豪(大阪府立泉北高等学校)、矢島道子(日本大学)、渡来めぐみ(私立茗溪学園中学校・高等学校)

審議の結果、承認された。今度の9月の理事会に上程する。

2. 市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす」の開催について(ジオパーク支援委員会 天野委員長)

ジオパーク支援委員会より標記シンポジウム開催の提案があった。昔の自然観・自然現象に関する伝承も重要な地質科学的な遺産であり、伝承の科学性を明確にすればジオパークにおける大きな財産となると考えている。2023年1月頃開催希望。

一般の方々にとっても大変興味深いテーマであり、伝承の重要性、その科学化による伝承の活用に関するテーマはとても良い、との賛同意見があった。

審議の結果、開催企画・内容について承認された。

3. 日本地質学会第129年学術大会(2022東京・早稲田)プレスリリースについて(内尾)

内尾広報委員長よりプレスリリース書類案(資料配布形式)についての提示があった。配布の日付については大会直前とした。

審議の結果、執行理事会メールにて随時修正を行ったあと9/1付で資料配布を行う。今回プレスリリースする特筆すべき学術発表は胆振東部地震に関するため、特に北海道道政記者クラブにも配布する。関連情報として事務局より、読売新聞1名・共同通信2名からの大会への取材申込があったとのこと。

4. 研究奨励金規則(案)(内野)

内野若手支援WGリーダーより規則案の説明があった。

支給対象は、4月1日時点で32歳未満の若手会員とする。1件20万円以内、年5件程度。募集・審査のスケジュールは、1月初旬に募集を開始し、卒論が終わった頃の翌年2月末を締切とする。3月審査、4月理事会承認を得て、その後に支給する日程とする。奨励金の使用期間は2年。被支給者への奨励金は前渡しとして、簡易な会計報告と研究報告を行い、余剰分は学会へ返金することとする。

文言等微修正して9月理事会に上程する。

5. 地質学会年会に関連した地質学雑誌への論文投稿促進策について(小宮)

小宮地質学雑誌編集委員長より、論文投稿促進策が提案された。1つは、学会各賞受賞者による地質学雑誌またはIsland Arcへの学術的セルフレビューの投稿。もう一つは、学術大会発表の中から編集委員会の推薦を受けた発表に「レター」を投稿してもらうことを促したい。「レター」投稿に際しては、本投稿がある場合、二重投稿となる恐れがあるため、本投稿へ影響が出ないように何らかの方策が必要との意見があった。既存の規則の枠内で、受賞者へのセルフレビューおよび学術大会発表内容をレターとして投稿することを編集委員会として奨励していく方針が承認された。

6. 地質情報展の今後の方向性について(中澤)

地質情報展は、1997年の開始以来24回にわたり学術大会と同じ開催地で開催してきたが、最近では開催地が2巡目となることも多く、このまま学術大会との併催を続けると地質情報展の開催地が限定されてしまう。そのため産総研としては、開催地が2巡目となる場合は、学術大会開催地とは別のこれまで開催していない地域で情報展を開催する方向で検討を進めたい。ただし、地質学会との共同主催と共同した科研費の申請はこれまで通り希望する。

審議の結果、提案通り、共同主催、共同した科研費の申請を行い、活動を継続していく旨、承認された。

また、審議では以下の意見があった。従来、科研費の申請は、情報展と市民講演会を一体としてきたが、別々の地で開催することになると、2つの行事の一体性を申請時に十分に説明する必要がある。

また、学術大会は、会員が在籍する大学を開催場所とすることがほとんどであった。LOCが会場を熟知しているため運営上のメリットはあるが、コスト面の有利性が少なくなってきた。一方、現在は積極的に熱く誘致を行う地方都市もあり、会員の在籍の有無に関わらず、今後は幅広く会場選定を検討したい。その中で情報展についても再び同時開催となれば幸いである。

7. 9/10理事会審議事項の確認

①地学教育委員会メンバーの承認/ダイバーシティ委員会メンバーの承認

②研究奨励金規則(案)の承認

監事コメント(岩部監事)

・韓国との今後の交渉・対応についてこれから重要な時期となるので今後もしっかりと対応してもらいたい。

・専門部会の活動度に差があるため、専門部会からの各賞の推薦にばらつきが生じていることを理解した。地質学会の中での専門部会の活動はとても重要であるので、専門部会の活動が今後より活性化する方法を継続的に検討いただきたい。

以上

2022年9月10日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

CALENDAR

2022.10～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

2022年

10月 October

日本火山学会2022年度・秋季大会

10月12日(水)～19日(水)

会場：三島市民文化会館・三島市民生涯学習センター（ハイブリッド方式）

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

第31回 地質汚染調査浄化技術研修会（現地実習）

10月14日(金) ※日程が1日だけに変更されました

会場：日本地質汚染審査機構関東ベースン実習センター（千葉県香取市）

<http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm>

（後）第5回水循環シンポジウム（水郷の暮らしと水循環シンポジウム）

10月22日(土)

（午前）上戸不動の井（茨城県潮来市）等の見学会、集合場所：潮来ホテル

（午後）シンポジウム：基調講演：宮崎 淳氏（創価大学法学部教授）「健全な水循環の維持と地下水マネジメントー流れる水は誰のものか？」他

会場：潮来ホテル

<http://www.npo-geopol.or.jp/water-sympo.htm>

第61回温泉保護・管理研修会

10月25日(火)～26日(水)

場所：北とびあ つつじホール（東京都北区王子）

主催：公益財団法人中央温泉研究所

<http://www.onken.or.jp/seminar.html>

11月 November

（協）石油技術協会令和4年度秋季講演会（ハイブリッド）

11月1日(火)

場所：東京大学小柴ホール（東京都文京区）
<https://www.japt.org/>

第35回ヒマラヤーカラコルムーチベット ワークショップ（HKT-35）

11月2日(水)～4日(金)

場所：ネパール・ポカラ

www.gondwanainst.org/symposium/2022/HKT2022/Interimnotice-HKT-20220518.docx

問い合わせ：

Prof. A.P. Gajurel, apgajurel@fulbrightmail.org

Dr. L.B. Adhikari, lbadhikari@hotmail.com

日本火山学会2022年度・秋季大会

11月3日(木)～6日(日)

会場：三島市民文化会館・三島市民生涯学習センター（状況により開催方法・内容が変更になる可能性があります）

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2022年総会及び第19回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

→※11月に変更になりました

11月4日～6日(シンポジウム)

11月7日(峨眉山巨大火山区野外巡検)

場所：中国四川省成都工科大学 ※ COVID-19感染問題等で国内外の移動制限等がある時はオンライン会も併設する。

<http://www.gondwanainst.org/symposium/2022/IAGR2022/FourthCircular-IAGR2022%2%A0.pdf>

（後）第22回こどものためのジオ・カーニバル

11月5日(土)～6日(日)

場所：大阪市立自然史博物館

<http://www.geoca.org>

学術会議公開シンポジウム「私たちの地球はどんな惑星かー科学を混ぜて地球を探る」

11月5日(土) 10:30-12:00

場所：テレコムセンター 1F大ステージ

参加無料、事前申込不要。

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/331-s-1105.html>

第6回QST国際シンポジウム

「NanoTerasuが拓く科学技術イノベーション」

11月14日(月)～15日(火)

会場：イイノホール（東京都千代田区内幸町）（オンライン併用）

<https://www.qst.go.jp/site/3gev/intl-symposium2022jp.html>

国際シンポジウム2022「富士山地域DX～山岳観光と次世代通信～」

主催：山梨県富士山科学研究所

11月20日(日) 13:00-16:30(予定)

Zoomによるオンライン開催

事前申込制：11/10(木)まで

<https://www.mfri.pref.yamanashi.jp/>

（後）第32回社会地質学シンポジウム

11月25日(金)～26日(土)

場所：日本大学文理学部オーバル・ホール、オンライン（Zoom）併用

https://www.jspmug.org/envgeo_sympo/32nd_sympo/

12月 December

（協）第38回ゼオライト研究発表会

12月1日(木)～2日(金)

場所：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

<https://jza-online.org/>

地質学史懇話会（ハイブリッド）

12月17日(土) 13:30～16:30

場所：早稲田奉仕園（東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分）

山田俊弘・須貝俊彦「望月勝海日記通読プロジェクト」（仮題）

今村遼平「中国地図測量史」

問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com

学術会議公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題：地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて」

12月18日(日) 13:00-17:00（オンライン開催）

参加無料、定員300名

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/331-s-1218.html>

注意：新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行事中止の可能性もあります。実際の行事開催の有無については事前に各主催者、問い合わせ先にご確認ください。